

まちだ防災カレッジ

通信



まちだ防災カレッジ

備える・広める・行動できる 災害から〇〇を守る防災リーダー

まちだ防災
カレッジ通信

第3号

地域の防災リーダーに
聞きました

小田急金森自主防災隊
二川原 陽一さん

中村町内会自主防災隊
江口 宏次さん

まちだ防災カレッジ通信では、自主防災組織活動の活性化、新規加入世帯の増加を目的として、市民の皆さまを対象に情報発信を行います。

「こんな特集を組んでほしい」「〇〇について知りたい」などの意見がございましたら、お気軽に下記のお問合せ先までお申し付けください。これまでの記事は、町田市ホームページからもご覧いただけます。

町田市トップ>>暮らし>>防犯・防災>>
防災>>防災カレッジ
次回の防災カレッジ通信もお楽しみください。



江口さん、二川原さん対談

- ・最近の活動内容
- ・取り組み始めたきっかけ
- ・活動の特徴
- ・他の自治会へのアドバイス
- ・今後の意気込み

災害伝承10年プロジェクト結果報告

2023年1月31日発行

編集・発行：町田市役所防災課地域防災担当

お問合せ先

電話：042-724-2107

メールbousai010_09@city.machida.tokyo.jp

今回のまちだ防災カレッジ通信では、中村町内会自主防災隊の江口宏次さん、小田急金森自主防災隊の二川原陽一さんにお話を伺いました。江口さんには、これから本格化させていく防災活動について、二川原さんには、保育園とタッグを組んだ防災活動について、それぞれ熱く語っていただきました。この記事が皆様の活動のヒントとなれば嬉しいです。

中村町内会：1979年設立・712世帯・小山地区

小田急金森自治会：1979年設立・215世帯・金森地区

独自の防災マップ作成 保育園とのタッグ

最近取り組んでいる活動を教えてください。

江口 中村町内会の中に防災委員会というものが組織されています。委員会では、昨年行った防災訓練を踏まえて、町内会独自の防災マップの作成に取り組んでいて、今年度中に完成予定です。防災マップという名前ですが、地域の防災ミニユールの役割も持っています。その他に防災についてまとめたチラシと簡易トイレをセットにして全戸配布しました。

町内会独自の防災マップ
会員全員に配布される↓



東京都町田市・中村町内会
防災マップ
2018年9月作成、保存版

大地震の発生
市の対応
●震度4～5弱→災害対策本部設置、状況に応じ避難所開設
●震度5強→災害対策本部、避難所開設

避難の方法
市の対応
●警報発令、台風接近時
→災害対策本部設置、状況に応じ避難所開設
●災害発生又は発生の恐れがある場合
→災害対策本部、避難所開設

風水害の発生
避難所 小山中学校
小山小学校
できる限り集団を作り、避難行動



↑小田急金森を略しておだかな保育園での炊き出し訓練の様子

二川原 小田急金森自治会は小さくて自治会内に訓練が出来るような公園がありません。防災訓練をやる場所がなくて困っていた時に近隣に町田南保育園さんがあると気づき、そこで先生に頼んだところ、園長先生がすごく協力的で、保育園としても何かあった時には、地域の力を借りたいと思っています。お言葉をいただき、2017年から「おだかな防災フェス」という名前です。防災イベントを行っています。

互助の力を知って欲しい 熊本地震の経験があった

取組みを始めたきっかけを教えてください。

江口 近年の傾向として町内会、自治会から離脱したいという方も多くなりますが、互助の大切さ、自治会に入る意義を意識付けたいと考えています。それにはやはり、目に見える形で活動しないとダメで、言葉だけではあるいは回覧だけでは興味を持っていただけない。そこで去年くらいからこういった具体的な活動を進めています。少しずつ意識は高まってきているなど感じています。

二川原 2016年に熊本地震があり、以前から災害支援ボランティアに興味があったので、思い切って熊本に行きました。瓦礫の撤去や避難所の運営など4日間お手伝いしました。被災地での経験を活かしながら自分たちの地域で何が起こ

るか考えながら、具体的に方策を進めていかなければならないと強く感じました。

モノは揃った次は訓練 有志の防災サポーター

活動の特徴を教えてください。

江口 防災活動は10年以上続いており、これまでは資機材の調達を重点してきました。中村町内会は3つの自治会で構成されていますが、それぞれでスタンドパイプや荷車だとかは様々な助成金を活用しながら揃えました。これからはそれらを使った訓練を本格化させようと思っています。町内会の中には、境川に隣接するエリアもあって、そこでは風水害に対応した訓練もやっています。頭で分かっている人は多いと思いますが、資機材などは手で触って実体験をしないことには仕方ないと思っています。なるべくそういう機会を設けて、防災というものを通して、顔の見える形での交流、イベントを年に数回設け

たいと思っています。

二川原 役員さんが輪番制で1年で全員交代してしまうので、引き

継ぎが問題になっていました。特に役員として1年の間に防災研修や防災訓練に参加してみると、防災面は継続してやっていかなければならないものだと痛感していました。そこで9年ほど前、前年度の自治

会役員の経験者の方たちの呼びかけで、有志の防災サポーターチームを作り、継続的に防災面で役員さんのお手伝いをしようということになりました。防災倉庫の備蓄品の整理、スタンドパイプ訓練、避難

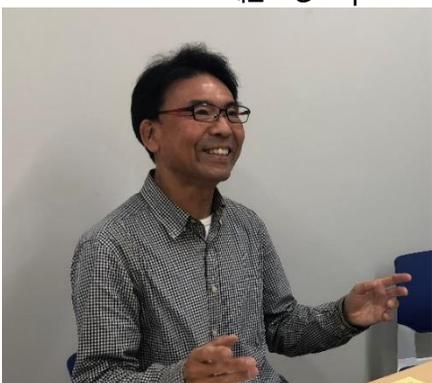
所開設訓練、おだかな防災フェスなど、輪番制の役員と経験を積んだ

防災サ

ポーター

が協働して取り組んでいま

す。



今までの活動を棚卸する 楽しく明るくをテーマに

自治会活動や防災活動に関わ

る人を増やすというのは他の地域でも共通のテーマだと思いますが、何か他の組織へのアドバイスはありませんか。

江口 会長になってから1年間、会議と行事をいっどういう内容でやったかの日報をつけました。すると、

4月〜12月の9カ月間で61回、90件の会議と行事がありました。これ

では仕事をしている人はとても町内会活動に関わってもらえないと感じ

ました。今まで何十年と慣例的に

やってきた町内会活動などを、こ

れは本当に今の時代に必要なの

か？今の若い世代に必要なのか？

という視点で棚卸していかなければ

いけないと考えています。行事の見直しと同時に会議を半分

することも提案しています。また

デジタル化というのとも言われてい

ますから、絶対に顔を合わせてや

らなければいけない会議を除いて

メールやフェイスブックのグループ

機能を利用してそこでも情報共有

するなどしています。

二川原 あまり役員会とか会議を

詰め込みすぎちゃうと、役員をや

るなんてとんでもないとなっちゃい

ますよね。だからなるべくそこはス

リムにしてやるべき最低限のことに

絞って、割り振ってます。防災訓練

については、一般参加がなかなか来

ないというのが実情です。遊びなが

らでも放水訓練を混ぜたりして体

験したりという方法を取っています。



一つ、明るく楽しくというのをテーマにしている、興味を持っていただけるように実施しています。その時になにか皆さんの心に残る何かがあると協力してくれる方も少しずつ増えていくのかなと思っています。前回やったおだかな防災フェスでは、ペットの同行避難をテーマにドッグトレーナーの方を招いて訓練を行いました。自治会の方がペットを飼っていて、何かペットのことでできないかとお声をいただいたところから発案しました。地域から上がった声を具体化させる、地域の悩みを落とし込んだらどうなるか

ということをやってみるのは大事だと思います。

市としても手続きのオンライン化などを進めています。防災を楽しく体験できる工夫は大事ですね。

ポトムアップで進める

防災は自治会活動の軸

最後に今後の活動に対する意気込みをお願いします。

江口 私は1年間やってきて一番感じたのは、ポトムアップでやっていかなければいけないということですね。上からの目線で防災の活動をやるようではいけないと思っています、自分たちに必要だから、こういう手続きをすると、訓練をしたら、それを下からすくい上げて実現していく形にしたいです。言われたからやるというのでは身につかないので、本当に自分たちに必要なものはなんなのかを見極めてやっていきたいです。後は、顔の見える関係の中での互助が町内会活

動の意義だということを皆さんに知らせられるようにしたいです。

二川原 やはり、自治会会員の方との顔の見える関係を作り、平日頃より皆様との会話、交流をしていきたいです。防災は自治会活動をする上で最も重要な要素だと思います。保育園さんとの関連では日中には園児が約100名いる、一方自治会内には高齢者しかいないなど、発災時の時間、曜日を想定した訓練も連携して行う必要性を感じています。またいろいろな防災への向き合い方があってありますが、皆さんに楽しんで、興味をもってもらえるようにしていきたいです。そうすれば来るべく災害に対して強い地域になれると思うし、そこは諦めず、人が集まらなくても何度でもやっていきたいし、地域の人を信じているので、一人でも一緒にやってくれる人が増えるといいと思っています。その努力はしていきたいと思っています。

ありがとうございました。

災害伝承10年プロジェクト「助けられる人から助ける人へ」 1月16日(月)に開催

講師：糸日谷 美奈子 (いとひや みなこ) 氏
東日本大震災当時、釜石東中学校に勤務し、約250人の子どもたちと津波から避難。『学ぶことで助かる命がある』ことを実体験し、2019年に防災士の資格を取得し、地域に根差した防災教育を行っています。

講演内容：当時勤めていた釜石東中学校では防災教育が実施されており、発災時、生徒自らが避難行動をとったことによって、多くの命が助かりました。釜石の奇跡と言われるが、奇跡ではなく、準備をしっかりとしていたからこそです。防災教育を通じて、自分の命は自分で守ることの大切さを、地域と共有することが大切です。また参加者からは、避難所での生活や在宅避難についての状況、そして被災時の精神状況の変化等、時系列に沿って講演いただいたことが好評でした。



講演の様子